

棚橋と橋のたもとの 安楽子育て地蔵

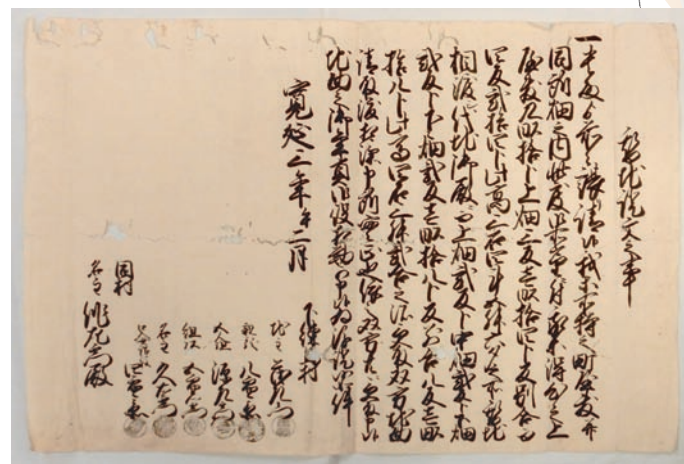
富士信仰の厚かった江戸時代、霊峰富士や大山のあぶり神社を目指した江戸庶民が通った橋で、旅人が川越街道から分かれて最初にわたったのが、田柄川にかかっていた 棚橋です。その橋のたもとに建っていたのが、安楽子育て地蔵です。子育て地蔵尊は1784年（天明4年）建てられたものです。願主は大山道道標と同じ、内田久右衛門。地蔵は子供を



守るとも説かれたため、練馬の村々でも子育て地蔵が多くが建てられたようです。



木下家古文書



江戸時代に下練馬宿で本陣を經營し、名主を勤めていた木下家の文書類です。1642年（寛永19年）～明治期の53点が現存しています。1750年（寛延3年）の替地証文には「御殿」の地名が記されており、第5代將軍徳川綱吉が將軍就任前に鷹狩りに訪れた際の宿泊施設「御殿」との関連がうかがえます。江戸時代の下練馬村の様子を知ることができる貴重な資料です。

本陣は中宿の木下家（後に上宿の大木家に交代する）が務め、その街道を挟んだ向かいに問屋場があり、木下家東隣の内田家が脇本陣を務めた。

